



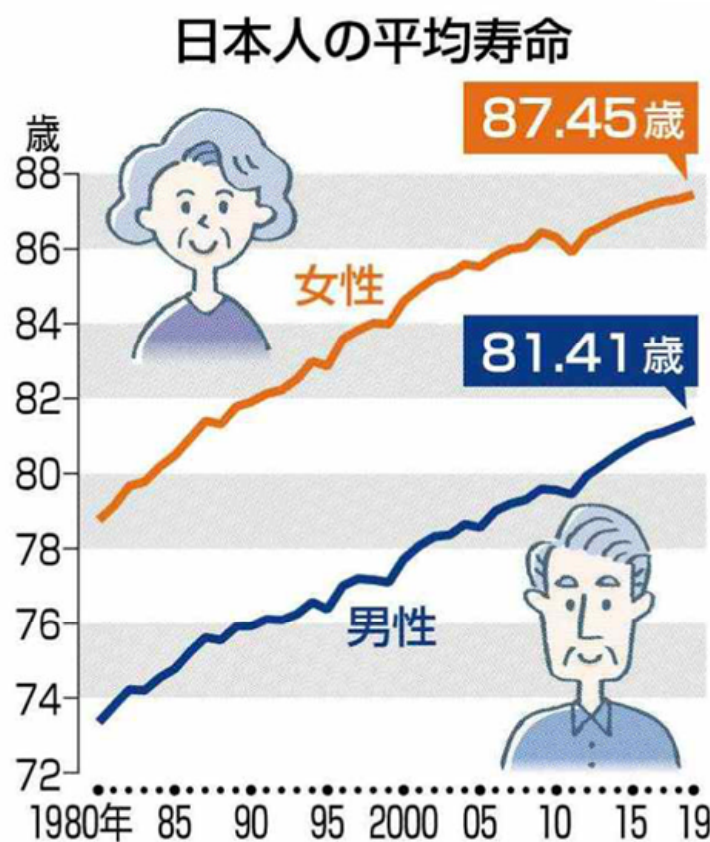
年 組 名前

道新のワークシート

2019年の日本人の平均寿命は女性が87・45歳、男性が81・41歳となり、ともに過去最高を更新したことが、厚生労働省が発表した簡易生命表で分かった。前年に比べ、女性は0・13歳、男性は0・16歳延び、いずれも8年連続のプラスとなった。女性は5年連続で世界2位、男性は3年連続で3位だった。

厚生労働省は平均寿命が延びた背景について「健康意識の高まりや医療技術の進歩がある。今後も緩やかに延びていくのではないかと」している。主な国・地域の平均寿命は、女性の1位が香港（88・13歳）で、3位はスペイン（86・22歳）。男性も1位は香港（82・34歳）、2位はスイス（81・7歳）だった。

女性87.45歳、男性81.41歳



平均寿命8年連続更新

同省の試算では、19年に生まれた日本人で75歳まで生きる人の割合は女性が88・2%、男性は75・8%。90歳までの割合は女性が51・1%で、男性が27・2%だった。19年生まれの人が将来、がんや心疾患、脳血管疾患で死亡する確率は、女性が計44・72%で、男性は計49・62%。どちらも減少傾向にあり、男性で50%を切ったのは03年の調査開始以来初めて。これらの病気による死亡がゼロになったと仮定すると、平均寿命は女性で5・45歳、男性で6・65歳延びるとした。同省は介護を受けたり、寝たきりになったりせずに生活できる「健康寿命」を算出しており、最新の16年は男性72・14歳、女性74・79歳だった。

2020年8月3日（月） 朝刊 全道遅版 社会 22P（記事は再編集しています）

①日本の平均寿命が、延びた理由を答えなさい。

②厚生労働省が算出した「健康寿命」という考えは、どのようなものか答えなさい。

③あなたは、この人口構成を踏まえて、政府はどのような福祉社会を目指していけば良いと考えますか。（自由記述）